

## 平成30年度学校協議会からの提言と学校の見解について

島本町立第一中学校長 松本 剛

### (1) 島本町立第一中学校として目指す方向について

提言	<p>① 生徒の力を伸ばすために、「確かな学び」の推進と学力向上への取組と併せて、前向きで活動的な学校文化の醸成を図ることで第一中学校の教育を充実させていただきたい。 教科授業や学校行事等を充実させる中で、子どもの自主性・主体性「やる気」を引き出す教育の進展を期待する。</p> <p>② 学校力を高めるために、人権教育を中心とした生徒ひとり一人が自他を大切に、「いじめ」を生まないコミュニケーション能力の育成に努めていただきたい。同時に社会性が身につくようなルール・マナーの大切さを学ぶ機会を多く設けるとともに、地域で子どもを育てるという理念を基に、学校と家庭・地域が連携をより密接にすることで、必要に応じて正課・課外の両面で子どもをフォローできる協働体制を構築願いたい。 また、地域の公立学校として生徒をはじめ保護者・地域住民から高い信頼を得るために、双方向的な係わりが更に進展できるよう学校協議会の発展形としてのあり方についても、一考を願いたい。</p> <p>③ 子どもを健やかに育てる上で、教員自身がゆとりを持って教育活動に臨むことが大切であり、そのためにも勤務時間の管理や職場環境の醸成に努めていただきたい。</p>
取り組み	<p>① 将来の「生きる力」を生徒ひとり一人が培われるために、生徒の主体性・自主性を重んじる教育を進めることで、互いを尊重し、集団としての質を高め、個々の可能性や本人の「やる気」を引き出す教育に努めます。また、学力向上に向けた実践研究は、継続して行なってまいります。</p> <p>② 個々の生徒が健やかに成長できるよう学校と家庭・地域がより密接に連携し、協働によるさまざまなフォロー体制が構築できるよう、発信力を高め、具体的取組につなげてまいります。 人権尊重を本校教育の柱とし、いじめや差別を生まない土壌作りに学校全体でさらに邁進してまいります。また、保護者・地域の声を積極的に受け止め、信頼される学校づくりを目指す上で、学校協議会の充実・発展に努めます。</p> <p>③ 教員本来の職務を充実させ、子ども達を豊かに成長させるために教員の労働時間の管理や指導に努め、働きやすい職場環境の醸成をおこないます。</p>

### (2) 学力向上及び自学自習力の強化について

提言	<p>① 全体的な学力は府内でも高いレベルにあると考えられるが、一方では学力の格差が見られる。また、「自学自習ノート」の活用も図られているようだが、生徒によっては具体的に何を・どのように・どのくらいすべきかが、わからずに定着できない子どももいると思われる。具体的な自学自習の指示が必要である。併せて復習しやすいノート作りや板書の工夫等、勉強が苦手な生徒にも理解しやすい取組方策の検討をお願いしたい。さらには学校と「ゆめ本部」との協議・連携を深めなが</p>
----	--

提 言	<p>ら放課後学習会やテスト前学習会、土曜スクール等へ積極的な生徒の参加を促していただきたい。</p> <p>② 小中一貫した教育を進める中で校区の小学校との情報共有をさらに進め、新1年生に対する指導方法等を学年担当の教師間で共通認識され、計画的に指導されることを切望する。</p> <p>③ 新学習指導要領の実施に向けて、「主体的・対話的で深い学びのある授業づくり」の研究が進められているが、知識を単独で理解する棒暗記のような浅い学習から、既存知識・経験・疑問等へとつなげて新しい知識を理解し深い学びへと向かう各授業の展開については、今後とも授業研究と実践の積みあげをお願いしたい。</p>
取 組 み	<p>① 全国学力テストや府のチャレンジテスト等の結果分析から、様々な課題点を洗い出し、改善に向けた具体的方策を学校全体で取り組みます。自学自習力の育成を目的にした「自学自習ノート」の活用についても、定着の仕方や学習のやり方等についてもまだまだ改善の余地があり「ゆめ本部」との連携を視野に入れた新たな取組を展開してまいります。</p> <p>また、学習会等への生徒の参加を促すため積極的な働きかけや家庭への発信に努めてまいります。</p> <p>② 校区の小学校とは、さまざまな情報交流を行いながら新教育課程の展開に伴う、教材観や指導観の共有を図りながら小中で一貫した指導方法等の確立に努めます。</p> <p>③ 新しい学習指導要領は、変化する社会において学校と地域社会が連携・協働しておこなう「社会に開かれた教育課程」であることから、移行期間にあたる次年度についても、その主旨や内容のポイント等について、保護者・地域住民の方に対しても周知する機会を多く設けるよう努めます。</p>

### (3) 英語教育と国際理解教育の推進について

提 言	<p>① 英検への受験者、合格者が年々増加しているのは大変良いことだ。小学校の外国語活動と連結するため中学生がゲストティーチャーとなって校区の小学校を訪問するなど新しい取組へのチャレンジを期待する。</p> <p>② 昨年オーストラリアの学生たちとの交流があったが、今後とも積極的な国際交流が図れるよう校内での協議をお願いしたい。</p>
取 組 み	<p>① 生徒の英語に対する興味関心が高まり、英語を活用したコミュニケーション能力が向上できるよう、英検にチャレンジする生徒を増やし（今年度は述べ135名が受験）、卒業時には英検3級以上の力を有する生徒が70%以上（今年度は約68%）となるよう努めてまいります。</p> <p>② 子ども同士の交流は、グローバル社会を生き抜くこれからの子どもたちにとっても、非常に有意義な機会であることから、積極的にそのような機会を設けるよう働きかけてまいります。</p>

#### (4) 人権教育・「こころの教育」の充実について

提 言	<p>① 学校で人権の大切さや社会のルールなどを道徳の授業を通して学ぶ機会があると認識している生徒が大変多いので、よりレベルの高い教育や日常での指導を引き続きお願いしたい。</p> <p>② いじめも含み、生徒の様々な課題に対しては、早期の発見・対応が必要と考えます。生徒の主體的な活動により「いじめ問題」を考えさせたり、生徒や保護者とのコミュニケーションを大事にされ、情報の共有に努めていただきたい。</p> <p>③ 不登校生徒への対応が引き続き必要だと思われる。学校の適切なバックアップ体制や学習面での支援に対しゆめ本部等との連携も進められたい。</p> <p>④ 個別の支援計画に基づいて当該生徒たちに対して適切な支援や進路保障をお願いしたい。ゆめ本部と連携したオリーブ生徒への学習支援についてもさらに環境整備をお願いしたい。また、通級指導についてもその成果等を発信いただきたい。</p> <p>さらには、発達特性への理解と対応について教職員・保護者を含め、研修等の機会を多く設けることで、研究と実践を進めていただきたい。</p> <p>⑤ 様々な取組をとおして、島本一中に「誇り」や「愛着」を感じる生徒の育成に努めていただきたい。</p>
取 組 み	<p>① 日常の教育活動の中でも子どもの人権が尊重される教育の充実に努め、特別の教科としての道徳の授業では、さまざまなルールの遵守やマナーの大切さなども含め、道徳的意識や価値観、道徳的判断力など今後より良く生きていくうえでの土台作りを進めてまいります。</p> <p>② 生徒会活動を中心に生徒がより主體的に「いじめ」問題について考え、自らが積極的にいじめ撲滅に向けて関わっていただけるよう取組の推進に努めてまいります。</p> <p>③ 不登校の課題については、学校全体の問題として認識し、家庭との連携はもちろんのこと各関係機関や地域ともつながりながら、個々のケースに応じた効果的な手立てを積極的に進めてまいります。</p> <p>④ 特別支援教育については、本校の教育重点課題として位置づけ、当該生徒に対するより効果的な支援や指導方法等の確立に努めながら、生徒理解につながる教員間での情報交流や障がいや発達特性に関する校内研修の充実を図ってまいります。</p> <p>⑤ 島一プライドを合言葉に、生徒それぞれが自分たちの学校を大事に思う心をさまざまな機会を通して大きく育て、地域に向けても発信していく所存です。</p>

#### (5) 生徒・保護者・地域から信頼される教職員の育成について

提 言	<p>① 教職員間の情報共有を密にされ、生徒たちの僅かな変化を早期にキャッチされ、事故等の未然防止を図っていただきたい。</p> <p>② 生徒の悩みを真剣に受け止め、良き相談相手となって生徒、保護者からの信頼を得ることができる教員の育成に努めていただきたい。</p> <p>③ 「生徒のために何が最善か」を基本に教職員が日常的に意見交換しやすい職場環境の醸成に努めていただきたい。</p>
--------	---

提 言	<p>④ 学校からの発信力をさらに高めていただくため、学校HP更新の充実や配信メール等の活用をお願いしたい。</p> <p>⑤ 生徒の携帯電話やスマホの所持率が高まっていることを受け、子どもたち自らがSNSの危険性やルール遵守の必要性などを考える機会を多く設けていただきたい。</p> <p>さらには、保護者や地域の大人も含めて現状を知り、考える機会を設けていただきたい。</p>
取 組 み	<p>① 教職員の世代交代が進む中、一中の教職員が一丸となって教育公務員としての自覚を深め日々の研鑽と資質の向上に努めてまいります。また、教員間の「報告・連絡・相談」をより密によりスピーディに行うことで、生徒への対応や事故防止に努めてまいります。</p> <p>② 個々の教員が常にカウンセリングマインドを持って生徒に対応することで、生徒が些細なことでも相談がしやすい学校環境の醸成に努めてまいります。</p> <p>③ 週1回の学年会議を中心に生徒の状況について学年教師が共通の認識を持ちながら、役割分担や協働による対応に努めます。教員の多忙化を少しずつ解消しながら同僚性の構築に努めてまいります。</p> <p>④ 学校HPの更新を充実させながらブログなどで日常の学校の様子や取組などを随時発信してまいります。</p> <p>⑤ スマホの取り扱いやSNSに関する危険性をより広く深く周知していくために、生徒や保護者に対しても、適宜研修の機会を設けたり授業でも取り扱っていく所存です。</p>